

幼子とともに

2024 年度 11月号

はじめに

いつも、幼稚園のために、御尽力を賜わり、心より感謝申し上げます。2024 年も残すところ、あと二か月となりました。秋ならではの園外保育やイベントなど、何かとバタバタとしていますが、こういう時期だからこそ、子どもたちの些細な成長に思いを強く馳せたいとも思います。

11 月から徐々に、クリスマスに向けた準備が始まります。神様が、この世に御子イエス・キリストを与えてくださったことで、私達は愛を知ります。この幼稚園の土台にある「神様の愛」を、もう一度、思い起こす大切な一か月を過ごして参りたいと思います。

何もなくても、子どもは遊べる

ある日、年少組が、公園へと出かけることに・・・しかし、当日はあいにくの雨、しかも降ったり、止んだりを繰り返す、何とも微妙な天気でありました。

園長は、早々と延期を促しましたが、年少の先生方は「もう少し待ちます!」と諦めません。すると、先生方の願いが通じたのか雨が上がり始めました。残念ながら、バスを早めにキャンセルしてしまい、お目当ての公園には行けませんでした。近くの久伊豆神社まで歩いて行きました。年少の子どもたちにとっては、近所を歩くだけでも、大冒険ですね(^▽^)/こうして、楽しく交通のマナーを学んでいくのだらうと思います。

久伊豆神社では、どんぐり拾いや松ぼっくり拾いをしました。秋ならではの自然に触れることも、大切な経験です。雨の匂い、風の感触、土や草、木の実に触れることで、暑い、寒い、冷たい、暖かい、いい匂い、臭いなど、子どもたちの五感がどんどんと育っていく様子を見ることができました。



ひとしきり自然にふれたら、次は、芝生の広場に

行きました。この広場の良い所は「遊具が一つもない」というところです。何もありませんから、何か遊びを造り上げなければいけません。しかし、ご心配無用です。子どもたちは、遊びの天才ですから、何も無いところから、遊びを作り、それを共有したり、競い合ったりと、子どもたちなりに楽しむことが出来ました。このようにして、子どもたちは、主体的に、何かを作り出す力を見つけていくのですね。

この園外保育で印象的だったのが、出発前の姿でした。綺麗に整列しながら、先生の話をじっと聞いています。改めて、年少さん一人一人が、成長しているの

だと実感しました。勿論、完璧ではありませんし、失敗も繰り返しますが、そうやって、少しずつ、少しずつ、でも確実に、子どもたちは、それぞれの個性をもって成長しているだろうと思うのです。

「知りたい」という気持ちを大事にしたい

ある日、園長は、たんぽぽのお部屋で、たんぽぽ組のお友達に向けて、絵本の読み聞かせをしました。読んで欲しい本を持っておいで、と声をかけると、たくさんの絵本を持ってきてくれました。そこで、ふと思ったのですが、年少の子どもたちは、「絵本と対話をするのを楽しんでいるな」と。クイズ方式の絵本は勿論のことですが（問いと答えという対話）、絵本の世界の中に、すっかりと入り込み、キャラクターに話しかけたりする姿が見られました。なかなか面白い、可愛い姿です。

そんなことを考えながら、二階に上がると、そこでは年中さんが、絵本を借りていました。どうやら、この時は、図鑑が大人気だったのでしょうか、待っている間から図鑑を読み始めている子どもたちが沢山いました。選ぶ図鑑にも個性がありまして、動物、虫、危険生物、国旗など、その時、その子にとって一番の関心が、そこに顕れていると言えるかもしれません。

大切なことは、子どもたちが、主体的に、自分で本を選んでいるということではないかと思います。「これを読みなさい」「これを読むべきだ」ではなく、子どもたちが、今、この瞬間に「読みたい」「知りたい」というその心を大事にしたいと思うのです。勉強・学習もそうですが、強制的・高圧的に促されることで、勉強・学習を嫌う心を作ってしまうこともあるかもしれません。いつでも、幼稚園では、子どもたちの今に寄り添いながら、子どもたちの「知りたい気持ち」を大切にしていきたいと願っています。



心の揺れ

この時期、とりわけ年長組の子どもたちは、大きな心の揺れを経験します。それは、色々な事情もあるかと思いますが、一つは就学前を意識しているための心の揺れです。もしかすると、保護者の皆さまもまた、心が揺れているかもしれません!!心配ですよね!!!

年長組になり、すっかり幼稚園に慣れ、最年長の自覚が生まれ、前よりも出来る事・分かる事が少し増えた分、相手と自分を比べたり、他者の行動に対して批判的になったり、あえてできないふりをしたり（やってもらうなど）、言葉や行動が強く出てしまったり、逆に赤ちゃんのように甘える仕草を見せたりと、この時期の年長さんは多面性を持っています。色々なことが出来る・分かることで、すこしずつ親を頼らないでも物事が完結する場面が増えていきますが、まだまだ親に頼りたいという気持ち（どこか親が離れていくような不安な気持ち）もあるのかもしれません。子どもが成長することで親から離れていく、という気持ちは、もしかすると、子ども自身も感じていることなのかなと思うこともあるのです。

また、子どもたちは、大人が思っているよりもはるかに、状況を理解しているところもあります。徐々に始まる小学校の香りを、何気なく、心で感じ取っているのかもしれません。楽しみである反面、まだ見ぬ世界に対して、一種の緊張が起こり、不安定になったり、甘えたりするなどの姿も見られるかもしれません。

しかし、そういう心の揺れを経て、子どもたちは、歩んでいきます。大切なことは、大人がそれを冷静に見守ることです。子どもたちは、大人たちの優しい眼差しの中でこそ、安心を取り戻し、それぞれ歩み出すのだと思うのです。園長 須賀 工

栄養士だより いけだかずみ先生

栄養士だより 11月
《さつまいも、おいしいね!》

5月に作付けしたさつまいもは、ほしバスを運転している小林さんが草取りや水やりなどを行ってくださり、いよいよ収穫の時を迎えました。うんどうかいの次、ばらぐみのみんなは、大きな袋いっぱいにくさんのさつまいもを掘ってきてくれました。そしてさっそく幼稚園の子どもたちみんなで焼き芋パーティーを楽しみました。その種や苗から野菜を育て、収穫して、調理して、一緒に食べる。その一連の流れは、私たちに多くのことを教えてくれます。収穫体験や、絵本などを通して、お子さまと話題にしてみたいはいかがでしょうか。掘りたてを蒸したさつまいもは、まさに旬の味覚ですね。蒸したさつまいもが残ったら、こんなレシピはどうでしょうか。

＊さつまいもソテー砂糖きな粉まぶし

小さめに乱切りして、お好みの油でソテーして、砂糖を混ぜ合わせたきな粉をまぶす。

☆きな粉はたんぱく質がちょっと不足しているときに便利な食品です!

＊さつまいもソテーシナモンシュガーまぶし

やはり同じようにソテーして、シナモンとグラニュー糖を混ぜ合わせた（量はお好み）シナモンシュガーをまぶす。